

項目	内容
名称	カラクサケマン [英]Fumitory、Beggary、Earth Smoke、Fumaria、Fumeterre [学名]Fumaria officinalis Schimp. Ex Hammar
概要	カラクサケマンは、ヨーロッパおよびアフリカ北部原産のケシ科 (ケマンソウ科) の一年草または越年草。高さ20~90 cm程度に生長する。主に地上部が用いられ、茶や食品の着香として使用される場合もある。
法規・制度	<b>■ 食薬区分</b> 「専ら医薬品として使用される成分本質 (原材料) 」にも「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料) 」にも該当しない。  <b>■ 食品添加物</b> ・天然香料基原物質リスト カラクサケマンが収載されている。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	・アルカロイド類 (プロトピン (protopine) など) (29) (81)、フマル酸 (29) (81)、フラボノイド類、苦味質 (81)、粘液 (81)、樹脂 (81) などを含む。
分析法	・カラクサケマン中のアルカロイド類をNMRにて同定した報告がある <a href="#">(PMID:15366062)</a> 。 ・地上部中のアルカロイド類をGC/MS法にて分析した報告がある <a href="#">(PMID:12494757)</a> 。

## 有効性

循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。	
消化系・肝臓	<b>RCT</b> ・過敏性腸症候群患者106名（試験群24名、平均49.0±9.1歳、ドイツ）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、カラクサケマン500 mg x 3回/日、18週間摂取させたところ、過敏性腸症候群の症状の総合評価および精神的ストレスに影響は認められなかった( <a href="#">PMID:16173134</a> )。	
ヒトでの評価	糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳  
(29) 牧野和漢薬草大図鑑 北隆館  
(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、別添3、一部改正について)  
(33) 世界薬用植物百科事典 誠文堂新光社 A.シェヴァリエ  
(34) 有用植物和・英・学名便覧 北海道大学図書刊行会 由田宏一  
(80) 植物レファレンス事典 日外アソシエーツ  
(81) Herbal Medicines Third edition (Pharmaceutical Press)  
(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)  
[\(PMID:16173134\) Scand J Gastroenterol. 2005 Aug;40\(8\):936-43.](#)  
[\(PMID:15366062\) Magn Reson Chem. 2004 Oct;42\(10\):882-6.](#)  
[\(PMID:12494757\) Phytochem Anal. 2002 Nov-Dec;13\(6\):363-7.](#)